

# 町なかに出かけよう！



## 各事業所積極的に外出行事を開催

# はんの木だより

2018 年 7 月  
第 70 号  
社会福祉法人美土里会  
青森県上北郡七戸町寒水 70-17  
電話 0176(62)2761

### レールバス見学 & つじ祭り見学

五月五日、「レールバスとあそぼう二〇一八」というイベントに、特養ご利用者三名と参加して来ました。二〇〇二年に廃止となった南部縦貫鉄道（レールバス）ですが、現在は南部縦貫レールバス愛好会の方々が整備をされており、年に一回ゴールデンウィークの時のみ体験乗車会を開いています。

今回の参加者は乗車することは出来ませんでした（すごい行列だったんです）、構内を往復走行する鮮やかな色のレールバスを見ると「やあ、凄いな」「昔乗ったことある」など感想を述べられ、過ぎ去るレールバスに手を振る様子が見られるなど、ひと昔前に思いを馳せた様子でした。

その後は、同期間に開催されていた「天王神社つつじ祭り」を見に行きました。見事に咲き誇ったつつじを見たご利用者は、みな大喜び！参加されたご利用者の一名は「このつつじ、俺が植えたんで！」と自慢げに話されており、周囲を驚かせていました。

### 観桜会（花見ドライブ）

四月二十六日、特養のご利用者で花見ドライブに出かけました。東北町の花切川から小川原湖畔にかけてド

ライブすると、満開の桜がお出迎え。車内からは一斉に「うわあ」「いいなあ」などと歓声があがるほどでした。

また別の日は、柏葉公園の桜や天王神社のつつじも見頃のうちに見物に行くことができました。天王神社は急坂の為、階段下の鳥居からの見物でしたが、アイスを食べながら斜面に咲き誇るつつじにご利用者の皆様も目を細めていました。今後も、天候・体調を見ながら外出し、ご利用者の気分転換を図ることができればと思います。

### イオンモール下田

五月十九日、特養利用者三名でイオンモール下田に出かけて来ました。大規模ショッピングセンターだけあって、皆さん驚いていました。ゲームセンターで昔を思い

出しながらゲームパチンコをプレイしたり、スターバックスコーピーでちよつと一服したりと、普段あまり体験できないことをできたようで、帰って来た時は皆さんとても良い笑顔を見せてくれました！

### 城南小学校運動会見学

五月二十六日、七戸町立城南小学校の運動会を見学して来ました。天気にも恵まれ、汗をかきながら一生懸命走る児童の姿を見て、参加されたご利用者は、暑さも忘れて拍手をしていました。同小学校にはお孫さん・ひ孫さんがいらつしやるご利用者も多く、この日も「ばあちゃん！覚えてる？」とお孫さんから声を掛けられたり、ご家族と一緒にな



つて見学・応援するなど、思いがけない出会いに思わず顔がほころぶことも。私たち職員も、思わず温かい気持ちになりました。こころよく見学を受け入れて下さった城

南小学校の皆様、本当にありがとうございました。

### ジェラートNAMIKI

デイサービスセンター梓では、六月の外出行事として、ご近所のNAMIKIへジェラートを食べに出かけて来ました。概ね天候にも恵まれ、たくさんのご利用者が参加されました。毎年恒例の行事であるため、予定を案内する前から『早く行きたい。何を食べたらいいかな？』などという声が聞こえていました。現地では、お好みのジェラートを注文し牧場の風景を眺めながら食べ、放牧されていた羊とふれあう事も出来ました。長時間の乗車が苦手なご利用者も増えてきているなかで、近場でもお出かけ気分や外食気分を楽しめることもあり、みなさん満足されているようにでした。今後も外出意欲の向上や社会参加という意味も含め、できるだけ多くのご利用者が参加できるような行事を続けていこうと思います。





事業所通信

美土里会



七月十二日、特養の盛田一栄業務統括相談員が、野辺地西高等学校で介護についての講話を行って来ました。これは青森県社会福祉協議会からの依頼によるもので、介護や福祉の仕事を考えている学生に、実際の現場の声や取り組みを伝えることで魅力を感じてもらおうことを目的としています。

この日、同校で介護・福祉を学ぶ学生三十九名の前で講話を行った盛田相談員。皆さん真剣に話を聴いて下さり、中には一生懸命にメモを取る生徒も。そんな姿に、将来の介護職員をみた気がして、少し頼もしく感じました。次世代の育成のため、また介護業界全体のため、これからも機会や依頼があれば、講演・実習受入等行いたいと思います。

デイサービスセンター様



盛田様 絵手紙ギャラリー



デイサービスには、様々な経歴の方がいらっしやいます。盛田典子様もその一人。先日膝の手術を行い、リハビリのためにデイサービスを利用されています。

若い頃は小中学校の教員で、美術を教えていらっしやいました。退職後は市町村の公民館講座で絵手紙教室の講師を務められたとの事で、お願いしてディで描いていただきました。

ある職員が、小学生の時に習字部に所属しており、その時の顧問が盛田典子先生でした。そのおかげで「字が綺麗ですね」と褒めの言葉を頂くことがあ

特別養護老人ホーム美土里荘



六月五日、青森県立病院医療管理官の小野正人医師を迎え、看取り(ターミナルケア)についての勉強会を行いました。小野先生は今年四月から公立七戸病院の協力医として週一回来られており、毎週美土里荘にお越しいただいてご利用者の診察を数名ずつ行っています。

終の棲家(つのすみか)人生の最期を迎える場所)としての意味も持つている、特別養護老人ホーム。全国的には、半数以上の特養が看取りケア(ターミナルケア)：施設内で亡くなることを支援することを行っていると統計があります。残念ながら美土里荘では現在、ターミナルケアを実施してはいませんが、今後の実施の可能性を探るため、小野先生に来荘頂き講義をしていただきました。

小野先生は講義の中で「我が国で老衰の高齢者に寝たきりの方が多く理由は、延命至上主義・医療倫理の欠如・死生観があいまいなどのほか、自然死の良さが知られていないという理由があります。そのため平穏死の環境が整えられていません。本人も家族も、医療も介護も、最終段階でどのような医療行為を望むか、どう関わるかをよく考える時代が変わりつつあります」と説明。一つの有力な方法として「リビングウィル」という考え方があ

間の遺言」お迎えが来た時の心づもり。本人が死ぬ時にどうしたいか、どこまで医療行為を望むか、周囲と相談して明らかにしておく、関係者で意思統一が出来ているかが重要になるとのことです。

この他にも、終末期の問題点、死は苦しいものかという医学的見解、初めての看取りの条件など、約一時間様々な話を伺う事ができ、参加職員の刺激になったようでした。今後、美土里荘としてどのような医療体制を作るかしっかり考え、出来る限りご利用者・ご家族のニーズに応えて行きたいと思っています。

リビングウィルの例

- 1) 私の病気が今の医療では元気に戻せない様になり、死期が近いと推定されたとき、いざに死期を延ばす措置はいっさいおこなわれず、もうほほ無駄と分かっている  
延命治療は始めないでね 不開始
- 2) ただし、私の苦痛を和らげるための医療は最大限におねがいします。辛い症状だけは、  
最優先で何とかとってね 緩和治療優先
- 3) 数カ月以上、私の意識が回復せず、植物状態に陥って、回復の望みがないとき、いっさいの生命維持装置をやめてください。  
たとえ延命治療がすでに始まってても見込みがほほないと分かたらやめてね 中断・中止



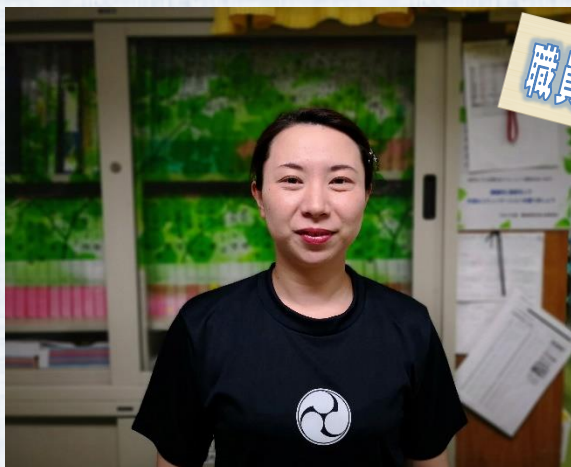
編集後記

七月に入り、暑くなったかと思えばある日は急に気温が低くなるなど、今年は気温の変化が激しいですが、皆さん体調はいかがでしょう？

七月はお中元の時期です。日頃からお世話になっている方や親戚などへ感謝の気持ちを表す為に贈り物をするを言いますが、最近ではお中元を贈る人は少なくなっているようで、親戚や友人関係が希薄になつてきていることなどがあるようです。そのような風潮の中でも、お世話になった方にお中元を贈れば相手も喜ぶと思います。この機会に贈ってみてはいかがですか(大)

職員コラム

特別養護老人ホーム美土里荘 介護主任  
赤沼 妙子 (あかぬま たえこ)



勤務して十九年となります。不規則な仕事ですが、家族に支えられ、安心して仕事が出来ています。子どもたちもすっかり大きくなり、以前は寂しがっていた夜勤の日も、今では今日夜勤なの？頑張つてねーとあつさりを送り出してくれます。

日々、ご利用者の笑顔に励まされ、楽しく仕事をしています。時には寝たきりのご利用者が笑って下さったり、話してくれたり。ご飯を食べない方が食べさせて下さったり。そんな嬉しいことがあると、改めてコミュニケーションの大切さと、やりがいを感じます。これからもスタッフと協力し合い、ご利用者一人ひとりに合わせたケアを目指して行きます。

美土里荘グループホーム 介護職員  
千秋 郁美 (ちあき いくみ)



美土里荘グループホームの千秋郁美です。

介護という仕事には全く興味のなかった私が、五十歳という年で縁があり、美土里荘にお世話になりました。

この世界に入り早十年が過ぎようとしています。聞く事、する事全てが生まれて初めてで一日一日が必死でした。十代の人なら直ぐに覚えらる事でも、五十歳ともなると一つ覚えては十個忘れるという繰り返しの連続です。

定年間近になり、身も頭もボロボロですが、職場の若い職員に多大な迷惑をかけ、そして支えてもらいながら毎日を過ごしています。

若い頃から極端な暑がりやで、色黒なのに夏嫌い、汗をかくのが大嫌いの私です。グループホームでは一年中半袖、ハーフパンツです！冬の朝、この格好でゴミ出ししているので、見掛けしている職員もいるかと思ひます。見ているだけで風邪をひくといわれて十年！残り少ない日々ですが、これからも暖かい目でみてくださ

利用者の皆様は、私の母親の年齢に近く、親近感を覚えて接しています。一日でも元気に長く過ごして頂けるように努めていきたいです。